

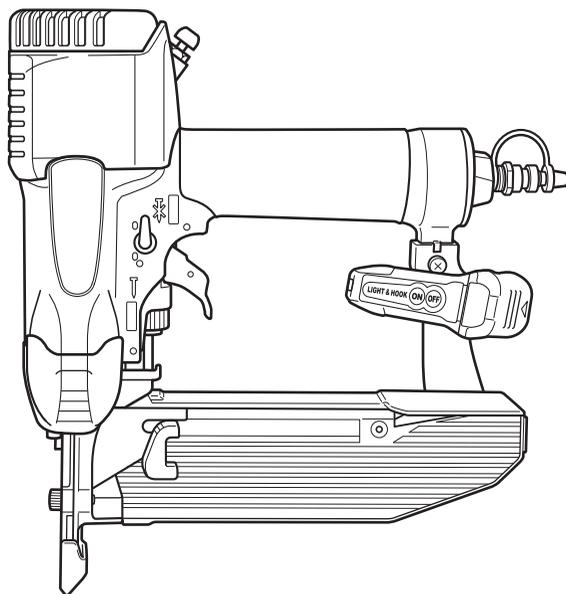
HiKOKI

高圧フロアタッカ

N 5008HM

取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

目 次

	ページ
高圧タツカの安全上のご注意	2
各部の名称	9
仕 様	9
ステーブルの選び方	10
標準付属品	10
用 途	10
作業前の準備	11
ご使用前に	12
使 い 方	14
保 守・点 検	22
エアコンプレッサと作業の速さ	26
使用潤滑油	26
ご修理のときは	裏表紙

⚠警告、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

⚠警告 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

⚠注意 : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

注 : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

高圧タッカの安全上のご注意

- けがなどの事故を未然に防ぐために、次に述べる「安全上のご注意」を必ず守ってください。
- ご使用前に、この「安全上のご注意」すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
- お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

作業前

- ① 保護メガネを使用してください。
 - 作業中は、保護メガネを使用してください。
 - まわりの人にも保護メガネをかけさせてください。ステーブルを連結している接着剤や、打ち損じのステーブルが目にあたると、けがの原因になります。
- ② エアコンプレッサ以外の動力源は使用しないでください。

タッカは、エアコンプレッサによる圧縮空気を動力源とする工具です。圧縮空気以外の高圧ガス（酸素、アセチレン、プロパンなど）を使用すると、爆発の恐れがあり、事故の原因になります。
- ③ 高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
 - この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを使用してください。
 - この機体およびこれらのエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用となっており、一般圧のものと接続できないようにしてありますので、改造をしないでください。これら以外のものを使用すると事故の原因になります。
- ④ 機体の排気音や排気空気から耳を保護するため、防音保護具を着用してください
- ⑤ 作業環境に応じてヘルメット、安全靴などの防具を着用してください。
- ⑥ きちんとした服装で作業してください。

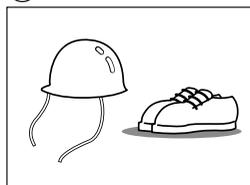
①



②



⑤



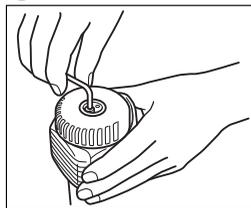
⚠警告

⑦ エアホースを接続する時は、次の点検をしてください。

- ねじ類がゆるんでいないこと。
- 損傷したり、はずれている部品がないこと。
- さび付きなどで、正常に動作しない部品がないこと。
- 引金がロックできること。
- プッシュレバーがスムーズに動くこと。

異常のあるまま使用すると、けがや機体の破損の原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

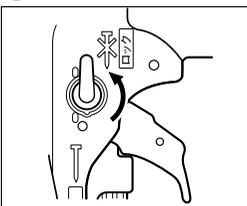
⑦



⑧ エアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- プッシュレバーの先に触れたり、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。
誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

⑧



⑨ ステープルを装てんする前に、エアホースを接続し、次の点検をしてください。

- エアホースを接続しただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
- 空気漏れや異常音がしないこと。

異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

⑨

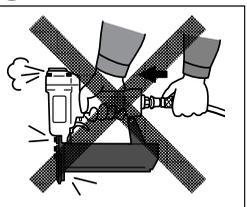


⑩ 使用前に安全装置の点検をしてください。

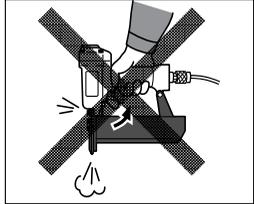
- この機体は、プッシュレバーと引金の両方を作動させないと、ステープルが発射されない構造になっています。

ステープルを装てんする前に、エアホースを接続して、引金のロックを解除し、さらにステープルフィーダを後方に引いて次の点検をしてください。

⑩

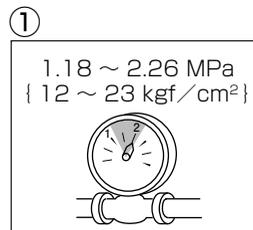


⚠警告

- 引金を引いただけで、機体内部のピストンなどの作動音がしないこと。
 - プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけで、ピストンなどの作動音がしないこと。
異常のあるまま使用すると、けがの原因になるので、異常のあるときは、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
- ⑩
- 
- ⑪ 用途にあった作業に使用してください。
- この機体は、木材または類似の材料へのステープル打ち作業を目的とした工具です。
 - 指定された用途以外には使用しないでください。
- ⑫ 指定のステープルを使用してください。
- 指定されたステープル以外のものを使用すると、けがや機体の故障の原因になるので使用しないでください。
- ⑬ 子供を近づけないでください。
- 作業員以外、タッカやエアホースに触れさせないでください。
けがの原因になります。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
けがの原因になります。
- ⑭ 作業場は、いつもきれいに保ってください
- ちらかった場所や作業台は、事故の原因になります。
 - 作業場は十分に明るくしてください。
暗い場所での作業は、事故の原因になります。
- ⑮ 作業する箇所に、内部配線やガス管など埋設物がないことを、作業前に十分確かめてください。

作業中

- ① 指定の空気圧力で使用してください。
- この機体の使用空気圧力範囲は $1.18 \sim 2.26 \text{ MPa}$ { $12 \sim 23 \text{ kgf/cm}^2$ } です。
この範囲内で使用してください。
 2.26 MPa { 23 kgf/cm^2 } を超えた空気圧力で使用すると、機体の破裂や損傷の恐れがあり、けがの原因になります。

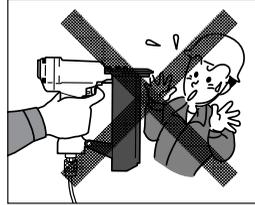


⚠警告

② 人体に射出口を向けないでください。

人体に射出口を向けて、誤って発射した場合、思いがけないけがにつながります。

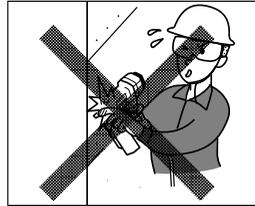
②



③ 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。

誤ってステープルが発射したり、はね返って飛んだときなど、けがの原因になります。

③

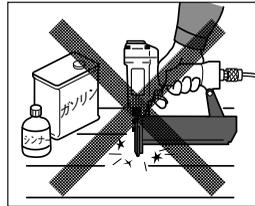


④ 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

- 可燃性の液体やガス（シンナー、ガソリン、塗料、ガス類など）のある所で、タッカやエアコンプレッサを使用しないでください。

ステープルを打ち込むときの火花による引火や、空気といっしょに吸引圧縮され、爆発や火災の恐れがあり、事故の原因になります。

④

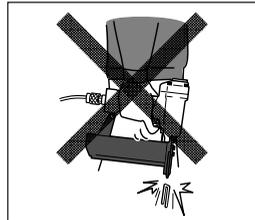


⑤ ステープルを打ち込むとき以外は、引金に指を掛けしないでください。

- 引金に指を掛けて、持ち運びしたり、手渡しなどをしないでください。
- ステープルを装てんするときや調整などをすると、引金に指を掛けしないでください。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑤



⑥ エアダスタバルブを使用するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
 - 人体に吹き出し口を向けない。
 - 射出口に触れたり、対象物に当たった状態にしない。
- 誤ってステープルが発射した場合、けがの原因になります。

⑦ ノーズキャップの着脱をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑧ フックを使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

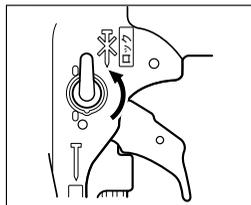
誤ってステープルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⚠警告

⑨ 次の場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

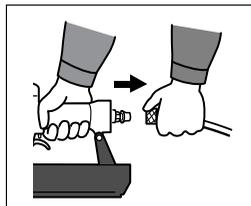
- 使用しない場合や作業中断時、使用後。
- 点検・修理・調整、ステーブルづくりの直しなどの場合。
- ステーブルを装てんする場合。
- タッカを移動する際や手渡しする場合。
誤ってステーブルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。

⑨



⑩ 引金に指を掛けた状態でエアホースをはずさないでください。

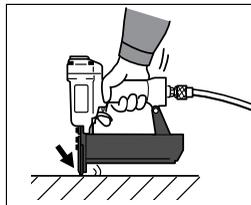
引金に指を掛けた状態でエアホースをはずすと、次にエアホースをつないだとき、誤ってステーブルが発射する恐れがあり、けがの原因になります。



⑪ ステーブルを打つときは、射出口を確実に対象物に当ててください。

- 一度打ったステーブルの上に、再度ステーブルを打つことはしないでください。
ステーブルがはね返ったり、機体が反発することもあり、けがの原因になります。

⑪



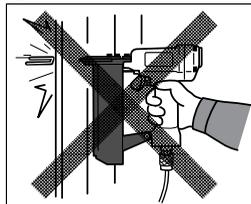
⑫ 作業中はまわりの人に注意してください。

- ステーブルを連結している接着剤や、打ち損じたステーブルが当たる恐れがあり、けがの原因になります。
- 高所作業のときは、下に人がいないことをよく確かめてください。
機体や材料を落としたときなど、事故の原因になります。

⑬ 薄い板や木材の端にステーブルを打たないでください。

薄い板に打つとステーブルが突き抜けたり、木材の角に打つとステーブルがそれたりして、けがの原因になります。

⑬



⑭ 機体の反発に注意してください。

- 硬い所に打った場合、機体のはね返ることがあるため、顔を近づけないでください。

⚠警告

⑮ 壁の両側から同時にステーブル打ち作業をしないでください。

打ったステーブルが突き抜けたり、壁ぎわのステーブルがそれたりして、けがの原因になります。

⑯ 無理な姿勢で作業をしないでください。

- 常に足元をしっかりとさせ、バランスを保つようにしてください。

転倒して、けがの原因になります。

- 高所作業のときは、ステーブル打ち作業中に落ちることのないように十分足場の安全性を確認してください。

けがの原因になります。

⑰ 屋外での作業は、次のことに注意してください。

- 高所作業の場合、エアホースは作業場所の近くに固定してください。

不意にエアホースを引っ掛けたりした場合、けがの原因になります。

- 屋根などの斜面でステーブルを打つときは、下から上に向かって前進しながら作業してください。後退しながら作業すると、足を踏みはずす恐れがあり、けがの原因になります。

- 床などの水平面でステーブルを打つときは、前進しながら作業してください。

後退しながら作業すると、足をとられ、けがの原因になります。

- 壁などの垂直面にステーブルを打つときは、上から下へ作業してください。

⑱ 油断しないで十分注意して作業を行なってください。

- タッカを使用する場合は、取扱方法、作業のしかた、まわりの状況など、十分注意して慎重に作業してください。

- 常識を働かせてください。

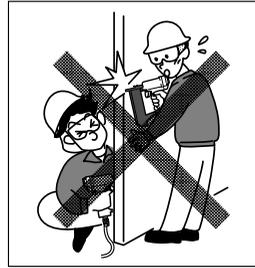
- 疲れているときは、使用しないでください。

⑲ エアホースをつかんで機体を移動しないでください。

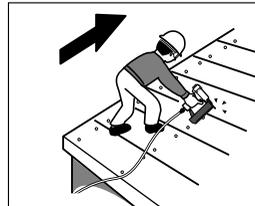
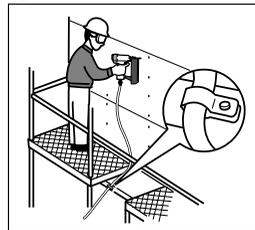
⑳ 誤って落としたり、ぶつけたときは、機体などに破損や亀裂、変形がないことをよく点検してください。

内部の圧縮空気 で 破裂の恐れがあり、けがの原因になります。

⑮



⑰



⚠警告

- ②1 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動を感じたときは、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。
そのまま使用していると、けがの原因になります。

②1

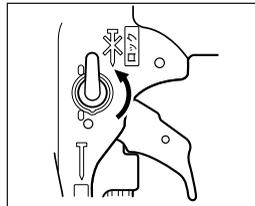


作業後

- ① 作業後は、引金をロックし、エアホースをはずしてから、ステーブルを全部抜き取ってください。

ステーブルを残しておくと、次に使用するとき、誤って作動させた場合など、けがの原因になります。

①



- ② タッカやエアコンプレッサは直射日光に長時間当てたまま放置しないでください。

- ③ タッカは、注意深く手入れをしてください。

- 安全に能率よく作業していただくために、タッカは常に手入れをし、清潔に保ってください。
- 付属品のお手入れは、取扱説明書に従ってください。

- ④ 使用しない場合は、きちんと保管してください。

- 乾燥した場所で、子供の手の届かない高い所または鍵のかかる所に保管してください。

- ⑤ 部品をはずしたり、改造をしないでください。

- 安全性が損なわれ、けがの原因になります。

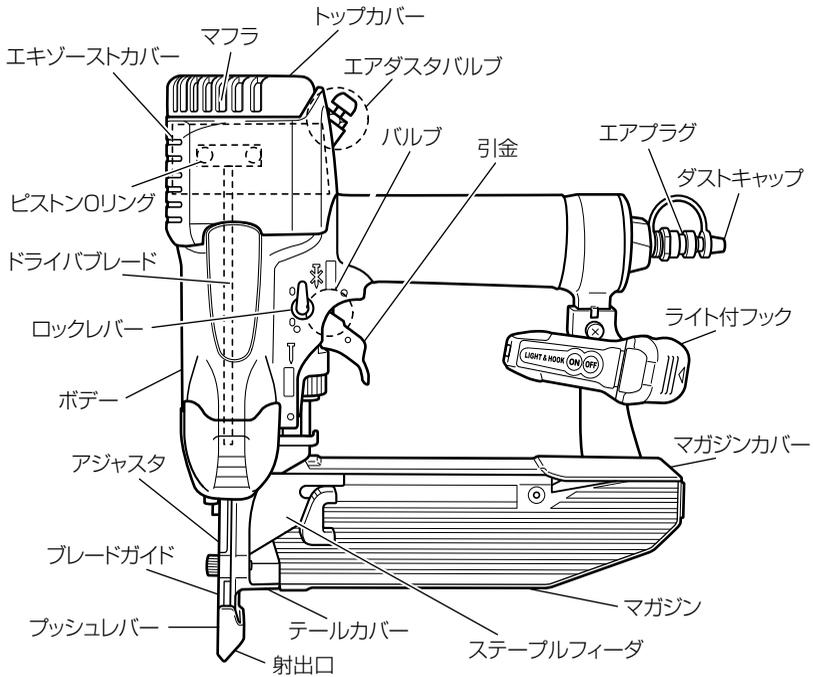
- ⑥ タッカの修理は、専門店で依頼してください。

- 修理は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

ご自分で修理すると、事故やけがの原因になります。



各部の名称



仕 様

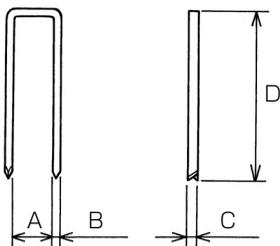
動力形式	ピストン往復動式
使用空気圧力	1.18 ~ 2.26 MPa {12 ~ 23 kgf/cm ² }
能力(使用ステープル)	B0832F2、B0838F2、B0845F2、B0850F2
釘の装てん数	60本(50本/1連+10本)
製品の大きさ	長さ 265mm × 高さ 268mm × 幅 74mm
製品質量	1.6 kg
ステープル送り方式	うず巻ばね式
使用エアコンプレッサ	弊社製 高圧エアコンプレッサ EC1430H2
使用エアホース	弊社製 高圧エアホース 内径 5mm - 長さ 10m、20m、30m 内径 6mm - 長さ 10m、20m、30m

ステーブルの選び方

この機体は、下の表に示すステーブルが使用できます。

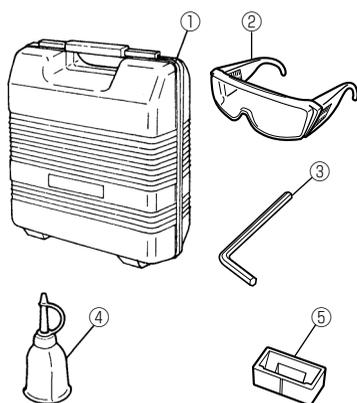
ステーブルは50本が1連に接着されています。寸法はおおよその値を示しております。ステーブルはこのフロアタッカをお買い上げの販売店でお求めください。

(寸法単位：mm)



ステーブル	A	B	C	D
B0832F2	8.3	1.4	1.65	32
B0838F2				38
B0845F2				45
B0850F2				50

標準付属品



- ① ケース 1 個
- ② 保護メガネ 1 個
- ③ 六角棒スパナ 5mm 1 個
(本体に取付けてあります)
- ④ 油さし 1 個
(釘打機・タッカ用オイル入り)
- ⑤ ノーズキャップ 1 個

用 途

- フローリング施工
- 床捨て張り止め

注 • 硬い材料(単層むく材)に打ち込むと、材料により入らない場合や割れる場合があるので、試し打ちして確認の上、使用してください。

作業前の準備

○騒音防止規制について

騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規制があります。ご近所に迷惑をかけないように、規制値以下でご使用になることが必要です。状況に応じ、しゃ音壁を設けて作業してください。

作業前に次の準備をすませてください。

1. エアコンプレッサ、エアホースの準備

この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。使用するときは、高圧釘打機用エアコンプレッサと専用の高圧エアホースを準備してください。この機体に使用できる高圧エアホースの内径は5 mm以上です。エアホースをエアコンプレッサにしっかり接続してください。

警告

- この機体は、使用圧力を一般圧のタッカより高く設定しています。高圧釘打機用エアコンプレッサと、専用の高圧エアホースを使用してください。
- この機体およびエアコンプレッサ、エアホースのエアプラグ、エアソケットも専用になっており、一般圧のものと接続できないようにしてあるので、改造しないでください。

注

- エアホースの長さは、30 m以内のものを使用してください。
エアホースが長いと圧力降下をして十分な打ち込み力が得られません。

2. エアコンプレッサ内のドレンを除去する

水や油が内部にたまりますと、さびの発生などで故障の原因になります。ご使用前には、エアコンプレッサの空気タンクのドレン抜きをゆるめて、内部にたまった水や油を除去してください。乾燥した清浄な圧縮空気を使用してください。（詳細はエアコンプレッサの取扱説明書をご参照ください。）

3. ステーブルの準備

用途にあったスタブールを準備してください。（前ページ参照）

4. 安全点検

警告

- 子供など作業員以外は近づけないでください。
- ねじ類がゆるんでいないことを、十分に点検してください。
- 損傷したり、はずれている部品や、さび付きなどで、正常に動作しない部品がないことを点検してください。

22 ページの「保守・点検」を参照し、必ず行ってください。

ご使用前に

⚠警告

- 可燃性の液体やガスのある所で使用しないでください。

1. 空気圧力の確認

⚠警告

- 本機の使用空気圧力の範囲は 1.18 ~ 2.26 MPa {12 ~ 23 kgf/cm²} です。この範囲内で使用してください。

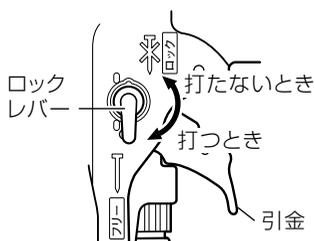
空気圧力は、ステーブル打ち込み能力（ステーブルの長さ、部材の硬さなど）に合わせて、1.18 ~ 2.26 MPa {12 ~ 23 kgf/cm²} の範囲で調整してお使いください。

空気圧力が 1.18 MPa {12 kgf/cm²} 未満または 2.26 MPa {23 kgf/cm²} を超えますと機体の性能、寿命、安全に影響しますので、使用空気圧力の範囲内で使用してください。

2. 引金のロック機構について

⚠警告

- ステーブルを打ち込むとき以外は、引金をロックしてください。



この機体には、引金を引けなくするロック機構がついています。

ロックレバーを「ロック」の位置にすると引金がロックされます。

打つときはロックレバーを回して「フリー」の位置に、打たないときは「ロック」の位置にしてください。

3. 給油について

- 注**
- 付属の高圧タッカ用の油さしは、ノズルに穴があいています。先端を切らずに使用してください。
 - 高圧タッカ用の油さしは、中栓がしてあるので、中栓を取りはずしてから使用してください。
- また、使用しないときは中栓をして保管してください。

- 必ず 1 日に 2 回以上給油してください。給油は、作業の前後に 2 mL {2 cc} 程度の油をエアホース取付口から入れてください。作業前の油は潤滑油となり、作業後の油はさび止めとなります。

（次ページへつづく）

注 ●給油直後に空気を通すと、しばらくの間油が排気口より噴霧状に飛び散るので、油がかかっても支障のない所で2～3本釘を打ってから作業してください。

●作業後に給油した場合、釘を1本打つと油が内部に行き渡ります。

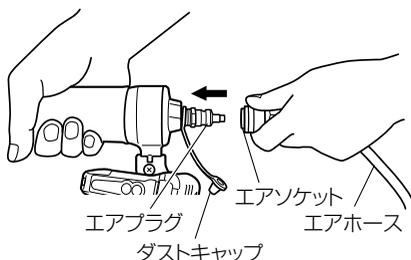
○油は付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を26ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。

4. エアホースを接続する

警告

機体にエアホースを接続するときは、次のことに注意してください。

- 引金をロックする。
- プッシュレバーの先を台や床などにのせて、押し上げた状態にしない。
- 射出口を人体に向けない。



○エアプラグからダストキャップをはずします。

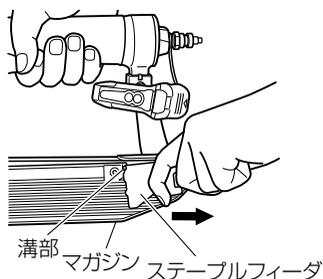
○ごみやほこりが内部に入らないよう、エアプラグの口元のごみをふき取ります。

○エアソケットをエアプラグにしっかりとさし込んでエアホースを接続します。

5. ステープルを入れる

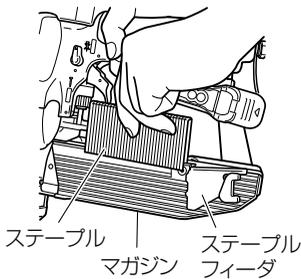
警告

●ステープルを装てんする場合は、引金をロックし、エアホースをはずしてください。



注 ●ステープルは5本以上連結されたものを使用してください。

○ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部に確実に引っ掛けます。



- ステープルをマガジンの上方から入れ、手で前方へ送ります。
- ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部からはずし、ステープルを押しのように静かに戻します。

注 ●ステープルフィーダは必ず静かに戻してください。
 ステープルフィーダを急にはなすと、急激に戻り、ステープルが変形したり、ばらばらになったりして、ステープルづまりの原因になります。

使 い 方

⚠ 警告

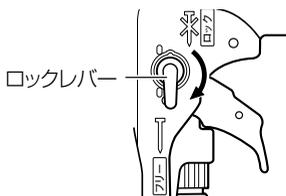
- 作業中は、必ず保護メガネを使用してください。
- 作業中は、まわりの人の安全確保にも十分注意をはらってください。
- 人体に射出口を向けないでください。
- 射出口付近に顔や手、足などの人体を近づけて作業しないでください。
- 一度打ったステープルの上に、再度ステープルを打つことはしないでください。
- フックを使用するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

注 ●低温時に使用すると、機体の動作が悪くなる場合があります。

○安全装置について

この機体は、プッシュレバーと引金が同時に作動しないと、ステープルが発射されない構造になっています。したがって、引金を引いただけのとき、または、プッシュレバーを打ち込み対象物に押し当てただけでは、ステープルは発射しません。これは、誤って引金を引いたり、プッシュレバーを押し当てただけで、ステープルが発射されることを防ぐためです。

1. ロックレバーを「フリー」の位置にする



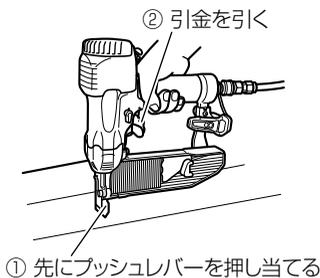
ロックレバーを回して「フリー」の位置に合わせてください。

2. ステープルの打ち方

この機体は、打ち込み対象物によって、効果的な使い方ができるように「単発打ち」と「連続打ち」が使い分けできる機構を装備しています。

この機体は、フローリング(床張り)作業用の製品です。狙い打ちを確実にするため、「単発打ち」での使用をお勧めします。

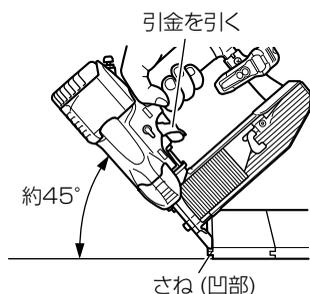
(1) 単発打ち



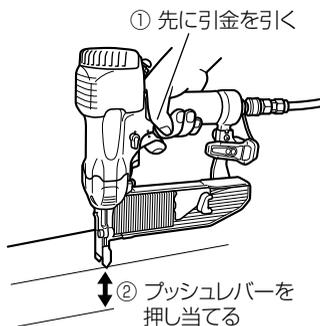
単発打ちは、仕上げを重視する場合や狙った所にステープルを打つ場合に使用します。打ち込む所にプッシュレバーを押し当て、引金を引く動作で、ステープルを一本ずつ打つことができます。

注 •狙った所にステープルを打つ場合は、単発打ちで作業してください。

フローリング作業はフロア材の浮上りを防止するため、機体の打ち込み角度は約45°にし、プッシュレバーの先端凸部をフロア材のさね(凹部)に確実に当てて打ち込むようにしてください。



(2) 連続打ち



連続打ちは、はじめに引金を引いておき、その後、ステープルを打つ所にプッシュレバーを「トン・トン・トン」と押し当てれば、連続的に作業ができます。

注 •単発打ちで引金を引いたまま、再度プッシュレバーをステープル打ちする所に押し当ててもステープルは発射されません。続けて連続打ちする場合は、引金から指を一度はなしてから、連続打ちの操作をしてください。

注 •床に機体を置いた状態(プッシュレバーが押し当てられている状態)から引金を引きながら持ち上げたときなどは、単発打ちの状態になり、プッシュレバーを押し当ててもステープルが発射されない場合があります。その場合は、引金から指を一度はなしてから操作をしてください。

(3) 作業中断時、使用後のご注意

⚠ 警告

- 使用しない場合や作業中断時、使用後は引金をロックし、エアホースをはずしてください。
- 作業後は、エアホースをはずしてから、ステーブルを全部抜き取ってください。

- 注** • 作業後は、エアコンプレッサの空気を抜いて、空気圧力を 0 にしてください。ドレン抜きをゆるめると、タンク内のドレンが除去されると同時に、圧縮空気が抜けて空気圧力が 0 になります。

3. ノーズキャップの使い方

⚠ 警告

- ノーズキャップの着脱をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

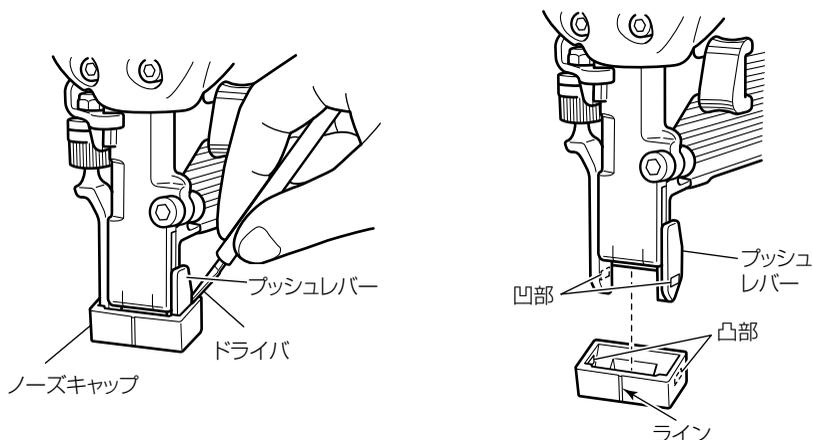
平打ちする場合、木材などの表面をプッシュレバーで傷付けたくないときは、プッシュレバーの先端にノーズキャップを取付けてください。

(1) ノーズキャップの着脱

ノーズキャップはプッシュレバーに押し込むだけで取付けられます。

ノーズキャップのラインを本体の前方として、内側にある凸部がプッシュレバーの凹部に入るまで押し込みます。

取りはずすときは、プッシュレバーのスキマにドライバなどの細い棒を入れ、抜きます。

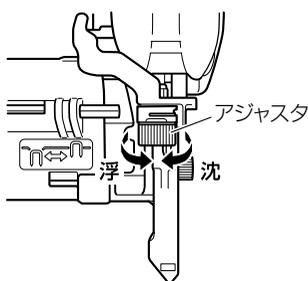


4. 打ち込み深さの調整

警告

- 打ち込み深さの調整は、アジャスタによって行います。アジャスタを調整するときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。
- アジャスタを調整するときは、射出口を下に向け、顔や手・足などの人体がないことを確認してください。

(1) アジャスタの調整



- この機体は、アジャスタを回すことにより、打ち込み深さを調整できます。試し打ちし、ステーブルが沈みすぎる場合はアジャスタを浮く方（マーク「↑」）に回します。ステーブルが浮くときはアジャスタを沈む方（マーク「↓」）に回します。アジャスタは1回転させるごとに0.8 mm 移動します。
- アジャスタを回すときは、プッシュレバーを押し上げないでください。



- 注** • 打ち込み深さの調整は、使用空気圧力によっても調整できますのでアジャスタの調整と併用してください。ステーブルの打ち込み抵抗に合わない高い圧力で使用すると本機の寿命を早めます。

(2) 空気圧力、アジャスタ調整の目安

- まず下表を目安にアジャスタ、使用空気圧力をセットします。
- 試し打ちして、ステーブルが沈みすぎる場合は、アジャスタを浮く方に調整します。
- ステーブルの頭が浮く場合は、空気圧力を高い方に調整します。

使用空気圧力、アジャスタ位置の目安

使用ステーブル	使用空気圧力	アジャスタの位置
B0832F2	1.18 MPa {12 kgf/cm ² }	最も沈む方向に回してセットする。
B0838F2		
B0845F2	1.37 MPa {14 kgf/cm ² }	
B0850F2	1.67 MPa {17 kgf/cm ² }	

5. 空打ち防止機構について

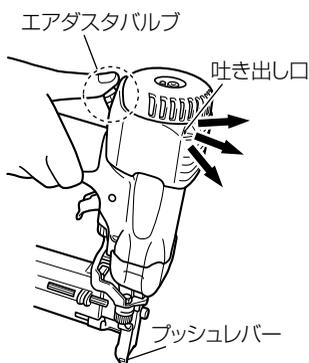
この機体はステーブルがなくなったあとの空打ちを防ぐため、空打ち防止機構を備えております。ステーブルがなくなると、プッシュレバーが上がらず、引金を引いても打てなくなります。

- 注**
- ステーブルフィーダを後方に引くと、空打ち防止機構が無効になります。不要な空打ちは各部に悪影響を与えるので避けてください。
 - プッシュレバーを押し当てたままでの打ち込み作業では、空打ち防止機構は無効になるので注意してください。

6. エアダスタバルブの使い方

⚠ 警告

- エアダスタバルブを使用するときは、必ず引金をロックしてください。
- 人体に吹き出し口を向けないでください。
- プッシュレバーを押し当てたまま、エアダスタバルブを使用しないでください。



この機体は、作業中に発生する木くずなどを吹きとばすためのエアダスタを備えています。

親指でエアダスタバルブを押して使用してください。

- 注**
- 機体に給油した直後、エアダスタバルブを使用すると油が吹き出し口より噴霧状に飛び散る場合がありますので、油がかかっても支障のない所で2～3秒試し吹きしてから作業してください。

- 注**
- エアダスタバルブを長時間使用すると、一時的に打ち込み力が低下する場合があります。このときは、空気の供給圧力が安定してから作業を始めてください。

7. 排気方向の変え方

警告

- 排気方向の調整をするときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。



ヘッドリングを回して排気口の向きを360°の範囲で変えることができます。

8. ライト付フックの使い方

警告

- ライト付フックを腰ベルトに掛けて機体を運ぶときは、引金をロックし、エアホースをはずしてください。

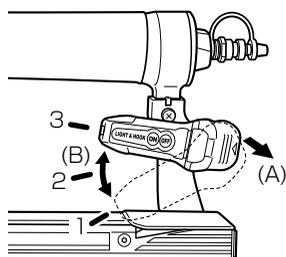
注意

- ライトをのぞき込んで、直接ライトの光を目に当てないでください。
ライトの光が連続して目に当たると目を傷める原因になります。

ライト付フックは

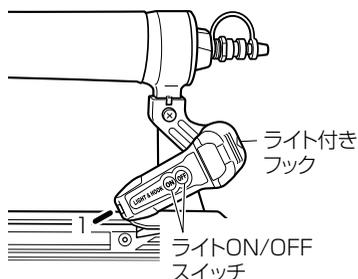
- 作業の合間に腰ベルトなどに吊下げるフックの役目
- 暗い場所でステーブル打ち作業する際の補助用ライトの役目
の2つの機能を持っています。

(1) フックとしての使い方



- フックを矢印(A)の方向(手前側)に引き出します。
- フックを矢印(B)の方向に回転させます。
- 左図の1から3のいずれかの位置で、フックをはなしてください。
中間の位置には調整できません。

(2) 補助用ライトとしての使い方



- フックの位置を図中 1 の位置に合わせます。
- ライトの ON スイッチで点灯、OFF スイッチで消灯します。電池消耗防止のため、小まめに消してください。このライト付フックには消し忘れ防止のため、15 分後に自動的に消灯する回路を組み込んであります。

○ライトの点灯時間の目安

単 5 マンガン乾電池……………約 15 時間 (1 回 3 分で 300 回)

単 5 アルカリ乾電池……………約 30 時間 (1 回 3 分で 600 回)

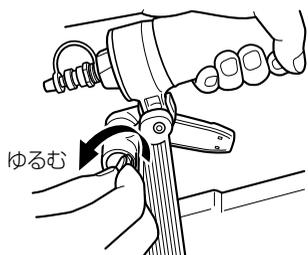
上記時間は目安です。

また、このフックにはお試し用としてマンガン乾電池が入っています。

(3) 電池の交換のしかた

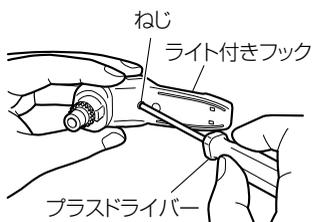
⚠注意

- 液漏れ、発熱、故障の原因になるため、下記のことに注意してください。
電池のプラス電極 (+)、マイナス電極 (-) を正しく入れてください。
電池は 2 本同時に交換してください。古い電池と新しい電池を混合しないでください。
使い切った電池は、すぐにフックから取り出してください。
- 電池を一般のごみと一緒に捨てたり、火の中に入れてください。
- 電池は乳幼児の手の届かない所に保管してください。
- 電池の仕様表示に従って正しく使用してください。

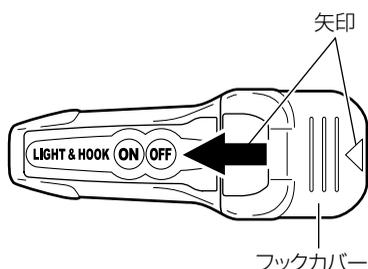


- 機体をしっかり支え、コイン (10 円玉など) または、お手持ちのマイナスドライバーを使用してねじをはずします。
ねじをはずすとフックとスプリングがはずれます。

(次ページへつづく)

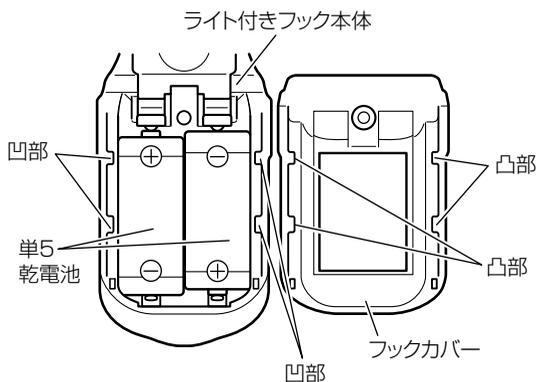


- フックのねじをプラスドライバー (No.1) ではなく、矢印方向へ押しながらフックカバーを取りはずします。



- 電池を取り出し、新しい電池を入れます。(フック本体の電池室の表示に合わせ、プラスマイナスを正しく入れてください。)
- フック本体の凹部とフックカバーの凸部を合わせながら矢印方向と反対方向に押し込み、フックカバーを取付け、ねじを締付けます。
電池は、市販品の単5、1.5V をご使用ください。

注 • ねじの締過ぎに注意してください。



9. ステープルの取扱い方

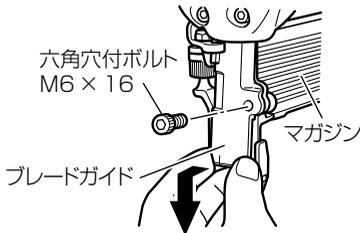
- 注** • ステープルの扱いをていねいにしてください。落とすと、連結部が切れます。また、そのままの状態で使用するとステープル送り不良により、空打ち、ステープルづまりなどが発生するため、使用しないでください。
- テーブルは長時間外気や直射日光にさらさないでください。さびの発生や、連結部に不具合が生じる場合があるので、使用しないときはステープル梱包箱などに入れてください。

保守・点検

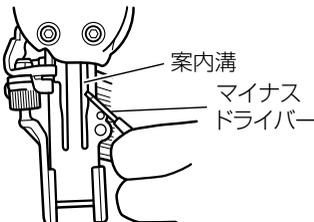
警告

- ステープルづまりを直すときや点検・手入れの際は、引金をロックし、エアホースをはずし、ステープルを全部抜き取ってください。

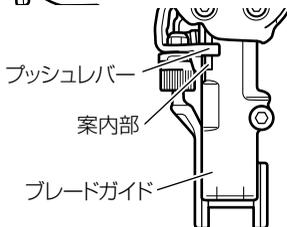
1. ステープルづまりの直し方



- 六角棒スパナ 5 mm (機体に取付けてあります) を使用して六角穴付ボルト M6 x 16 をはずします。
- ブレードガイド先端を前方に広げ、下方へ引っ張ってはしません。



- 案内溝につまったステープル、破片、接着剤、木くずなどをマイナスドライバーなどで取除きます。



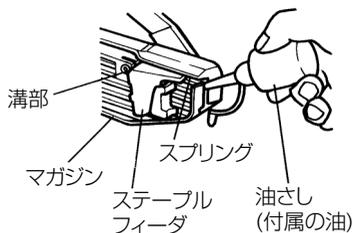
- 組立てのとき、プッシュレバーがブレードガイドの案内部に入るように行ないます。
- 組立て後、プッシュレバーがスムーズに上下動することを確認してください。

- 注** •ドライバブレードの先端が摩耗すると、ステープルづまりが発生しやすくなります。ステープルづまりが多発するようでしたら修理に出してください。

2. プッシュレバーの点検

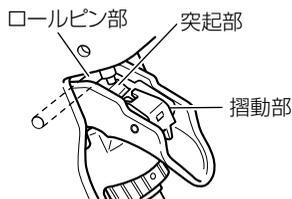
プッシュレバー（9 ページ参照）がスムーズに摺動するか確認してください。プッシュレバーの摺動部は掃除し、ときどき付属の油を注油してください。油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

3. マガジンの点検



- マガジン内をときどき掃除してください。
中にたまったステープルの接着剤、ごみ、木くずなどを取除いてください。
- ステープルフィーダのスプリング部は、ときどき注油してください。
ステープルフィーダを後方に引いて、マガジンの溝部にステープルフィーダを引っ掛けた状態で、後方からスプリング部に付属の油を注油してください。

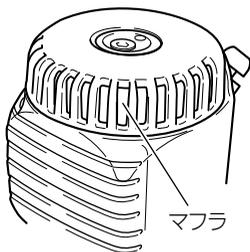
4. 引金部の点検



引金部の摺動部はときどき掃除し、付属の油を注油してください。

油を注ぐことにより動作がスムーズになると同時にさび止めにもなります。

5. マフラの点検

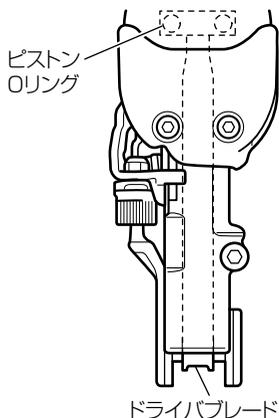


この機体は、排気時の騒音やホコリの巻き上げを少なくするため、排気部にマフラを内蔵しています。

マフラが目づまりや破損したときは、マフラを交換してください。

マフラ交換の際は、お買い求めの販売店に依頼してください。

6. ピストンリングの点検



ピストンリングは、消耗品です。射出口を下方に向けたときにドライバブレードが下降しているときは、ピストンリングの交換時期です。交換はお買い求めの販売店に依頼してください。

7. 各部取付けねじの点検

各部取付けねじでゆるんでいるところがないか、定期的に点検してください。ゆるんでいるところがある場合は、締め直してください。

8. ごみ・ほこりの防止

使用しないときはエアプラグにダストキャップをつけ、機体内にごみが入るのを防いでください。

9. 作業後の保管は

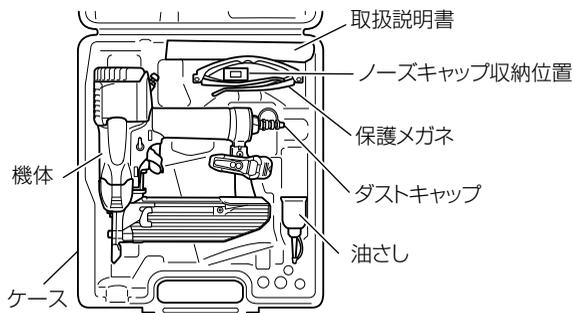


警告

- 作業後は、ステーブルを全部抜き取ってください。

注 ●エアプラグにダストキャップをさし込むときは、機体をさかさにして十分水抜きしてからさし込んでください。

- 作業後、機体の内部にごみやほこりが入らないよう、ダストキャップをエアプラグにさし込み、ケースに入れて保管してください。また、取りはずしたノーズキャップはケースのノーズキャップ収納位置に収納してください。機体と付属品は下図のようにケースに入れてください。
- 長期間使用しない場合は、
 - さび防止のため、エアホース取付口から給油し、2、3回空打ちして油を内部に行き渡らせてください。
 - 鉄の部分やバルブの部分には油をうすく塗布してください。
 - 油は、付属の油をご使用ください。その他、使用できる油を次ページに示しますので、これらの油をお使いください。なお、混用は避けてください。
- 気温が下がると、ゴム製部品の収縮で空気が漏れ、始動が悪くなる場合がありますので暖い場所に保管してください。
- お子様の手の届かない乾燥した場所に保管してください。



エアコンプレッサと作業の速さ

高圧釘打機用エアコンプレッサを使用する場合の作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）と使用空気圧力（MPa）の関係は、下表を目安にしてください。

作業の速さ（毎分合計打ち込み本数）

使用空気圧力 高圧釘打機用 エアコンプレッサ	1.18～1.37 MPa {12～14 kgf/cm ² }	1.37～1.67 MPa {14～17 kgf/cm ² }	1.67～1.96 MPa {17～20 kgf/cm ² }	1.96～2.26 MPa {20～23 kgf/cm ² }
出力 1.25 kW	150～120 本	120～80 本	80～70 本	70～50 本

○連続してステープル打ち作業をする場合には、別売の補助タンク（高圧対応）の使用をおすすめします。

使用潤滑油

使用潤滑油は、別売の釘打機・タッカ用オイルをおすすめします。この油も含め使用可能な潤滑油は下表のとおりです。

油の種類	銘柄および品名
釘打機・タッカ用オイル	—————（別途販売しております）
その他の オイル 〔市販品〕	ベビコン油 日立ベビコン用オイル
	エンジンオイル エンジンオイル各銘柄 SAE10W、SAE20W
	タービン油 タービン油各銘柄 ISO VG32～68（#90～#180）

注 • 潤滑油は必ず上表の油を使用してください。
不適正な油を使用すると動作不良の原因になります。

ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へお問い合わせください。

お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00～17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに
アクセス

バーコードリーダー機能付きの
携帯端末より読み取ることで、
最新の全国営業拠点をご確認
いただけます。



工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>